

⑫都筑の紅葉を楽しもう [参考資料]

催行日：2016年12月7日(水) 集合時間：9時半(地下鉄仲町台駅 改札正面)

港北ニュータウン誕生

私たちの住む都筑はこうして創られました！

30万年前：多摩丘陵が誕生し、その上に、箱根山・富士山からの火山灰が1万年で1.2mほどの割合で、2万年前まで積もって台地が出来ました。その大地を雨水が、毎日丘陵を少しずつ削り、谷を刻み、鶴見川・早淵川・大熊川・江川ができ、現在の地形が出来上がりました。約1万年前：都筑区域に人が住み始めました。



都筑区を開発前の地形で分類すると7つの地域になります。

- ①早淵川流域北部台地 ②早淵川流域低地
- ③早淵川流域南部台地 ④大熊川流域北部台地
- ⑤大熊川低地 ⑥大熊川流域南部台地
- ⑦江川流域です。

グリーンマトリックス設計の思想の要点は、次の二つです。

第1に、通過交通の入り込まない「コミュニティ道路」を整備し、住宅地の街路で親子が安心して遊べる街にする。

第2に、現存の社寺・屋敷林を保全し、家

族で散歩する道を整備することで、散歩する喜びを味わい、開発区域に住む家族が、社寺の歳時記に参加し、タウンセンターで遊んだ思い出を積み重ねます。

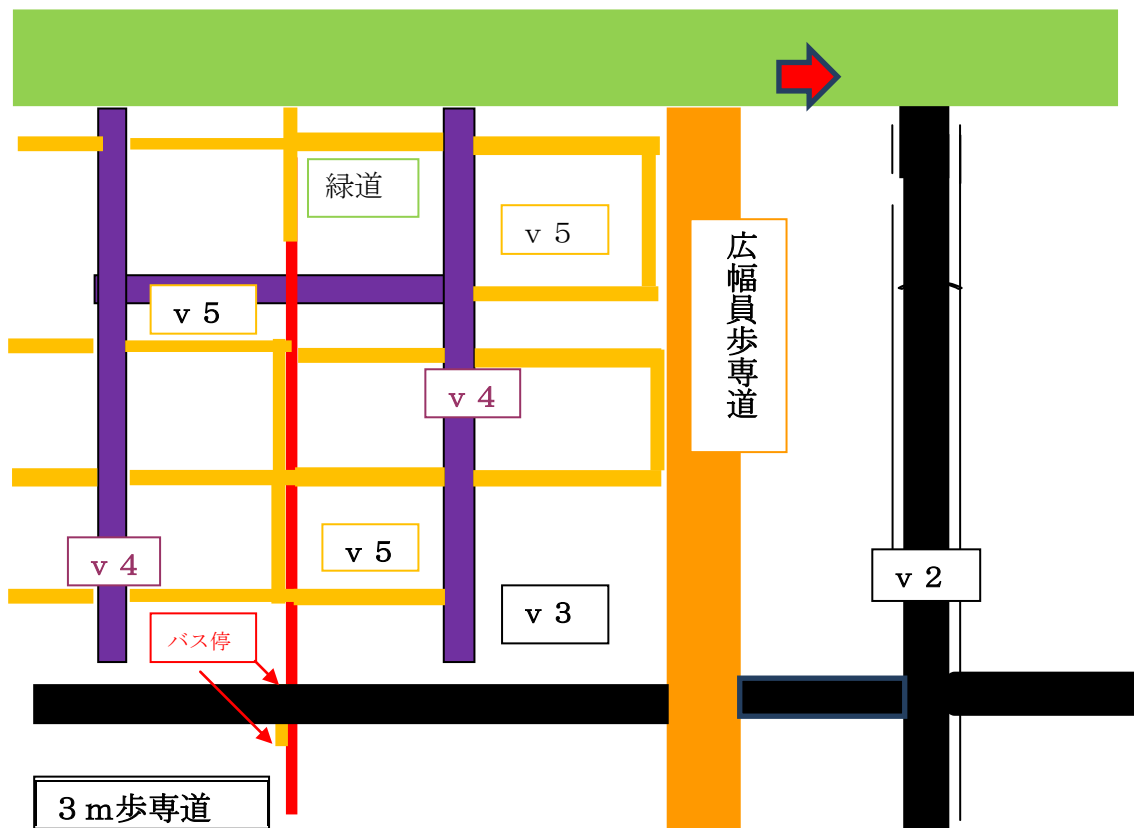
(港北ニュータウン設計で、第2番目に決めた、広幅員の歩行者専用道路図)



(港北ニュータウン設計で、第3番目に決めた、コミュニティ道路モデル図)

④大熊川流域北部台地は、尾根林を新鮮野菜畑として、必要な用水を備えた農業専用地区に整備しました。⑤大熊川低地は、水田地帯で農家と神社寺(長福治・真照寺・源東院・天満宮・竜雲寺)が帯状の集落を形成しました。⑥大熊川流域南部台地は、6500年前「縄文海進」の貝塚台地(折本貝塚)で、鶴見川に沿って北西に連なる尾根筋です。この尾根筋に、小机城の支城が作られ、鶴見川との間を府中街道が走っています。

⑦江川流域と大熊川流域南部台地の南側山裾は、周辺の水田農家集落で、鎌倉道・中原道が鶴見川にぶつかるところに渡しの宿が出来ます。宿と府中街道が山裾の農家集落と混在した商業地帯を形成したと聞きました。



凡例：v 3はバス道路 v 4はバス道路から入り、同じバス道路に戻るU字型の区画道路

③地帯は、港北ニュータウン・グリーンマトリックスのまちです。

④～⑦の地帯は、歩行者専用道の無い地帯ですが、良いところが沢山ある地帯です。歩行者専用道がなくても、歩行者優先信号や、一方通行や、既存道路に歩道を付け加えることなどで、安心して歩けるコースが作れば良いなと思っています。

***都筑区全体が素敵な場所になる可能性を考えてみます**

鶴見川本流と早淵川を回遊できるルートになる楽しい散歩道を発見したいものです。都筑区を鶴見川流域に展開する広域レクリエーションの中継基地として位置づけたいですね。

①～③地帯で作られた緑道と駅（センター南駅・仲町台駅・ふれあいの丘駅・センター北駅・中川駅・北山田駅）は、広幅員の歩行者専用道（通学・買い物・通勤の歩行幹線）で連結されていて、緑道と交差する広場は、駅前商店街の夏祭り会場にもなります。

その広場は横浜市民の活動の場ともなり様々なイベントが催行されています。

①～③地帯のせせらぎの流れは、早淵川にそそぎ、鶴見川に合流した後に東京湾に至りますので、水系に沿って動く生物の多様な再生が予想され、再生の仕事に市民が参画して自然を満喫できるようにする可能性があります。

また、①～③地帯の緑道と、鶴見川自転車道とを安全につなぐ道を、④～⑦地帯で発見し、その道をPRすれば、区外の市民は鶴見川から、都筑区の農地・集落が管理・継承する神社・寺の伝統的な祭りに加わり、農村の原風景を味わう広域レクリエーションの場が出来る可能性があります。

都筑区全体を素敵な場所にする骨格は、グリーンマトリックスです。

北部地域は港北ニュータウン設計の第1～第3までの前提条件であった「住宅市街地のグリーンマトリックス」を完成させるためには、②早淵川流域低地地帯の緑道・広幅員歩専道・コミュニティ道路計画を、町内会などが中心となって検討し、改良することです。

南部地域の良いところは、歴史が蓄積された豊かな農村風景です。良いところを活かした「農の有る環境グリーンマトリックス」の概念モデルはまだありません。それは、地元の人だけでなく、横浜市民皆が歩き回り、どうするのが良いかを話し合う中から生まれます。都筑発見講座や、都筑区誕生20周年マップ作製委員会や、ガイドする会や老人クラブなどのリーダーが、案内しやすいマップを作り、それを改良する仕事を公開で進めることだと思います。

